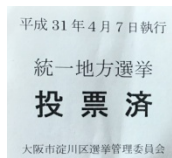


大阪の選挙

4月7日午前、自宅近くの小学校に統一地方選の投票に行った。投票所前には行列ができていた。時間帯にもよるが、名古屋では考えられないことだ。投票率に期待しながら4人の候補者に投票した。投票の「証」に葉をもらおうとしたが、今は廃止したという。そのかわりに、小さな紙切れを4持ってきてくれた。複雑な思いで投票所をあとにした。



夜8時に「ダブル選」当確が早々と。深夜までに維新「完勝」などの選挙結果も出た。眠れぬ夜に考えたことを忘れないうちにレポートしておきたい。

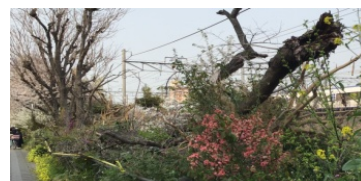
なぜ、維新は大阪でこれほど強いのであろうか。政治学者にきちんと分析してもらいたいが、大阪に1年余り住み今回の選挙戦を間近に見てきて、私なりの感想とコメントを書いてみよう。

第1は、維新の「組織力」の強さである。衛星都市などの無投票当選などを見ても、古くからの保守地盤をうまく引き継ぐとともに、10年近くの間組織を強固にしてきたのではないかと。維新は日頃から選挙準備に余念がなく、保守・無党派層への組織拡大を進めている。維新を支える「応援団」にも注目したい。維新の政策に「恩恵」を受けてきた経済界、維新の政策・主張を垂れ流す地元マスコミなどだ。それと大阪的な現象として、吉本興業によるPR作戦の影響も大きいのではないかと。こうした維新「応援団」は、万博誘致にも力を発揮した。

第2は、維新の「広報・宣伝作戦」である。自宅に維新のチラシが新聞折込されるが、カラーで写真や図表がきれいにレイアウトされている。たぶん広告会社などが制作したものだろう。維新の資金力が、豪華な大量チラシにもあらわれている。チラシは「実績自慢」ばかりで、それも眉唾ものが多い。演説を含めてデマと中傷、フェイクまがいの広報・宣伝。いわゆる都構想実現のために脱法行為のダブル選に臨んだのに、都構想はほとんど触れずじまい。

第3に、大阪府市民の維新に対する向き合い方である。個々の候補者よりも、維新という政党への淡い期待が広範に見られる。維新が停滞する大阪を変えてくれる、維新に「希望」を見出したいという人が多いのでは。大阪は今、訪日外国人で溢れ、カジノや万博などで浮かれており、一見すると「元気」を取り戻してきたようにも見える。そこを維新は巧妙に府市一体の大阪都なるものと結びつける。それを批判する人を、「抵抗勢力」として排除しようとする。それを市民が支持する。こんな構図であらうか。

とりあえず、今日は3点にとどめておく。今の気分は、写真の満開の桜のそばで、見向きもされない自宅近くのJR線路沿いの倒木のようなものである。



これでいいのか。引きつづきレポートしていきたい。

(2019年4月9日)